

# KELES Newsletter

## 関西英語教育学会報 2024年度 第2号

事務局：〒603-8555 京都市北区上賀茂本山

京都産業大学 外国語学部 平野亜也子研究室内

E-mail: [kelesoffice@gmail.com](mailto:kelesoffice@gmail.com) 学会ウェブサイト: <http://www.keles.jp/>

2024年11月28日発行



### 巻頭言

### 新常識への対応が必要

関西英語教育学会幹事長 平野 亜也子 (京都産業大学)

突然ですが皆様、鎌倉幕府がいつ樹立されたかご存知ですか？私は「いい国 (1192) 作ろう鎌倉幕府」と覚えていたのですが、最近読んだ『こんなに変わった！小中高・教科書の新常識』（現代教育調査班 [編]）から、「いいはこ (1185) 作った鎌倉幕府」に変わっていることを知りました。さらに、江戸時代にキリスト教信者を見つけるために行われていた「踏絵（ふみえ）」は、現在（2024年現在）の教科書では「絵踏（えぶみ）」となっているそうです。「そんなの知ってるよ！」と反応される先生方も多くいらっしゃると思いますが、私はすでに終わった過去の出来事である歴史に『改訂・変更』が起こるはずはないと鷹をくくっていたので、これまで偉そうに「知ってるよ」目線で話していた自分が、恥ずかしくなりました。

最近経験した新常識で、もう一つ驚いたことがありました。大学で使用しているテキストの、あるUnitで「アメリカの80%の大学生は、フルタイムまたはパートタイムで働いている。仕事と勉学の両立は簡単ではない」というテーマのパスセージがありました。その中の1つのパラグラフが以下の内容でした。

#### Find an Understanding Employer

Be sure to tell your employer that you are a college student. Sometimes you might need to leave work early to prepare for a class. Sometimes you might need to take time off to study for an exam. A good boss will understand your situation.

この内容に対して、以下の True or False の質問がありました。

A good boss will help you study for your classes.

教員用マニュアルに書かれている正解は、「False：正しい内容にするには、A good boss will let you leave early or take time off to study. と書き換える」でした。

私はこの通りに説明したのですが、受講生の一人から個別に「自分は True だと思いました。なぜなら“help you study for your classes”は、大卒では勉強することに理解を示すことで help になると思ったからです。どうでしょうか」という質問を受けました。彼は Chat GPT にこの質問に対する答えを聞いて、さらに自分の回答を入れて何度かやりとりをした後に、私に質問していたことがわかりました。もちろん ChatGPT は、彼の主張を裏付ける返答を返していました。大学では BYOD (bring your own device) を推進しているので当然の流れです。

これは私にとって初めての経験だったので一瞬びっくりしましたが、ChatGPT の返答を一緒に読み、「確かに、大卒ではあなたの主張が正しいかもしれませんね。Do you have a watch? と聞かれて Yes, I do. ではなく Oh, it's \*\*\*. と時間を答えてあげるのが自然な会話だけど、Do you ~ ? の質問に対して Yes/No の解答をすることがテストで求められてきましたからね。テキストの解答もそのようになっていきますね。でも、本当は時間を答えてあげるのが人としての回答ですよ。あなたの解答も正しいと思います」と対応しました。彼は納得してくれたようでしたが、今後このような状況は、小・中・高でも新常識として起こるのだろうか、と感じました。また、教員には新常識に対応する柔軟性が必要だと、改めて考えさせられた経験でした。

# 報告 関西英語教育学会 第60回 KELES セミナー

開催日：2024年10月6日（日） オンライン開催

10月6日（日）に、第60回 KELES セミナーが開催され、ICT を活用した英語教育について再考する機会となりました。講師として、松蔭中学校・松蔭高等学校の篠原弘樹先生と高松中央高等学校の山村潮音先生にご講演いただき、生成 AI や ICT を教育に取り入れることの効果とその意義を考えることができた機会でした。お申込み・ご参加いただいた 65 名の皆様に心から感謝申し上げます。

## 第60回 KELES セミナー

### 講演 1

#### 「中高6年間、毎日オンライン英会話&ICT 活用 でどう変わる？その取り組みと実践の紹介」

講師：篠原 弘樹先生

（松蔭中学校・松蔭高等学校教諭）

ICT を活用した教育は、現代の教育環境において不可欠な要素となっている。特に、オンライン英会話やデジタル教科書、探究学習などの実践を通じて、個別最適化や主体的・対話的で深い学びが促進されている。篠原先生の中高一貫校での授業実践は、その最前線に位置しており、現場の教員や生徒の声を通じて、未来の教育が目指す方向性を示している。

まず、「1人1台」のデバイス環境が整備されたことで、生徒一人ひとりに合わせた個別最適化が可能となった。これまで紙の教科書や一斉授業が主流であった教育現場において、ICT の導入は学習の質を根本的に変革する力を持っている。デジタル教科書の活用は、当面は紙との併用が続くが、長期的にはオンライン教材の活用が標準となる教育環境が構築されることが予想される。特に、リアルタイムのフィードバックが可能なオンライン英会話の導入は、生徒の英語力向上に大きく寄与している。

特筆すべきは、教科横断的な探究学習を通じて、生徒がグローバルな視点を持ちながら学びを深めている点である。異なる教科の視点を統合し、複雑なテーマに多角的にアプローチする探究型の学びは、単なる知識の定着に留まらず、柔軟な思考力や表現力、対応力を養成している。また、グローバル

な基準に基づき調査やレポート作成を行うことで、世界の状況に目を向け、深い学びを引き出している。オンライン英会話の活用により、英語の学習時間が増加し、総合的な学力と英語パフォーマンスの向上が同時に実現されている。特に、英検準一級レベルの生徒が、オンラインで多くの英語を話す機会を得ることで、英語力の飛躍的な向上が見られる。しかし、「話す量を増やすだけでは不十分である」という指摘も重要である。話す力と同時に思考力を養う必要があり、そのためには、国語と共通の評価基準を持つルーブリックの導入が有効であるという。言語運用能力は総合的な学力に依存しており、英語だけでなく他教科との連携が不可欠だからである。

生成 AI やイマーシブリーダーなどの先端技術を積極的に活用し、エッセイの添削や発音指導を行っている。マイクロソフトの音読正答率認識機能を用いた発音指導では、生徒一人ひとりに個別のフィードバックを提供し、学習意欲を高めている。また、AI による自動採点の導入により、公平な評価が可能となり、生徒が自己肯定感を持って学習を進める環境が整備されている。従来の教育方法にとらわれない最新技術を活用した個別最適化の実現は、生徒の学習の質を飛躍的に向上させるものである。

探究型学習やオンライン英会話を通じて、グローバルな視点を持つ生徒が増加している現状は、未来社会において非常に重要である。変動の激しい不確実な未来において、いかに効率的に英語を活用し自己を表現し、他者と協働できるかが求められる時代に入っている。この実践は、その未来社会に必要な力を育成する教育であり、個別最適化とグローバル視野の融合が、今後の教育の重要な要素となるであろう。

篠原先生の発表を通じて明らかになったのは、ICT とオンライン英会話をもたらす教育の質的変化である。今後、大学や大学院レベルの教育が中等教育にも導入されることで、さらに英語を使いこなす人材が増えるであろう。これらの実践を高く評価し、未来の教育に向けて、さらに多角的な視点からの探究学習やオンラインツールの活用が進むこ

とを期待する。ICTを利用して視覚的にも分かりやすく、動画等も取り入れられた分かりやすいお話で、あっという間に終わりの時間になった。

報告者：築地原 尚美（滋賀県立大学）

## 講演2

### 「『ふつうの教員』が『ふつうの生徒』に行った個別最適・協働的な学びを取り入れた授業実践」

講師：山村 潮音先生  
(高松中央高等学校教諭)

山村先生の講演は、10分にわたるご自身の紹介から始まった。メインの授業実践につながる「種まき」「芽生え」が既にあったことを、のちに「伏線回収」できた。それは例えば、山村先生が大学院卒業後、ワーキング・ホリデーの経験を経て就職された自動車メーカーにおける業務内容である。その「半分SE、半分通訳」の仕事は、後のICT活用につながっていた。

そしてご紹介された、現任校。総合進学コースには、アルファベットのbとdが逆になってしまうような生徒もいたり、授業で使用するiPadを充電してこない生徒も各クラス10人ぐらいいたりすることだった。「講義形式の授業は基本的に成り立たない」と先生は認識されている。

そこで生まれたのが、子どもたちが出してきたものに対して「公文式」のように先生が問いかけ、先生のOKがもらえるまで、生徒たちが個別で、あるいは仲間たちと協働で、課題に取り組むというスタイルである。授業風景の写真には、円になって床に座り込んでお互いのiPadをのぞき込み、課題に熱中する生徒たちの姿もあった。

1回1回の授業は、この高校の教育理念にある“IMPACT”を基に、生徒1人ひとりによる目標設定「マインドセット」で始まり、「振り返り」で終わる。“SIH”(Super Impact Highschool)であるこの高校の“IMPACT”の内容は、以下の通りである。

I: Independence (自立)

M: Morality (道徳性)

P: Passion (情熱)

A: Action (行動力)

C: Communication (コミュニケーション力)

T: Toughness (逞しさ)

生徒たちは、課題に取り組む前に「チェックイン」を行うが、その際に「意識するIMPACT」を選び、そのアイコンをiPadの画面上でドラッグ&ペーストすることができる。そして、課題に取り組んだ後、「チェックアウト」を行うときに、「成長したIMPACT」を選んで貼ることができる。

評価の基準として、生徒たちが発表してみた経験、仲間と協力してみた経験など、過程を重視し、非認知能力を伸ばすことを大きく意識されている。講演後の質疑応答のとき、「試行錯誤の過程は、ポートフォリオなどで残しているのか」という質問に対して、山村先生は、ロイロノートで、元々の作品に「上書き」ではなくコピーして増やしていくようにしている、と回答された。発表動画も1回目、2回目と全て残し、生徒自身も見返せるようにしているとのことだった。

また、山村先生が学力の新観点である「思考コード」をルーブリックとして示し、評価基準とされているのも特徴的である。その「思考コード」を活用すると、「知識量×知識の深さ」というように、1つの問題を2次元で評価することができる。例えば「知識量」とは、歴史で言うと「ザビエルがしたこと」であり、「知識の深さ」とは、「もしあなたがザビエルだったらどうするか」と、知識を創造的・批判的思考にまで深めることである。

山村先生は、英語の授業では常に「言語」と「内容」という2つの概念を同時に扱っていると述べられた。そして、生徒たちの言語使用面と内容面の両面の「知識の深まり」について、Fake Newsを作ってみる、Nudgeとは何かに迫る、そして地域のマスコットキャラクターを作ってみるといった具体的な実践例を挙げて示してくださった。

生徒の変容として、「授業内で喜んだり悔しがったりするようになった」と山村先生が振り返っておられたのが、特に印象的だった。それは、山村先生の授業が、単に知識を伝達するための授業ではなく、生徒たち自身が知識を深めて試行錯誤したくなる、まさにIMPACTある仕掛けが散りばめられた授業だからだ。それは先生ご自身の、一度目の留学での不完全燃焼という悔しさを、のちにワーキング・ホリデーという豊かな経験で昇華されたという過去ともつながった。

報告者：岩田 慶子（神戸市立星陵台中学校）

## 関西英語教育学会 セミナーのご案内

第61回 KELES セミナーを11月3日(日)にオンラインにて開催致しました。多くの皆様にご参加いただきありがとうございました。報告はまた後日致します。今後、下記のセミナーの開催を予定しております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

### 第62回 KELES セミナーのお知らせ

日時：2024年12月22日(日) 13:30~16:40

会場：龍谷大学 梅田キャンパス研修室

[https://www.ryukoku.ac.jp/osaka\\_office/access/](https://www.ryukoku.ac.jp/osaka_office/access/)

参加費：会員 無料、非会員 1,000円

参加方法：[事前参加申し込みフォームはこちら](#)

※当日参加も可能ですが、会員・非会員にかかわらず、会場の収容人数に限りがありますので、できるだけ2日前(12月20日)までに参加申し込みをお願いします。

※非会員の方は、事前に参加申し込みをした上で、当日受付で参加費をお支払いください。

テーマ：「デジタル時代の英語授業を考える」

講師：泉 恵美子先生(関西学院大学)  
加賀田 哲也先生(大阪教育大学)



スケジュール：

13:30-13:35 開会の挨拶  
13:35-13:40 泉 恵美子先生ご紹介  
13:40-15:00 泉 恵美子先生ご講演・質疑応答  
15:00-15:10 休憩  
15:10-15:15 加賀田 哲也先生ご紹介  
15:15-16:35 加賀田 哲也先生ご講演・質疑応答  
16:35-16:40 閉会の挨拶

ご講演内容の詳細は、[KELES ウェブサイト](#)にてお知らせいたします。

### 第28回卒論・修論研究発表セミナーのお知らせ

日時：2025年2月9日(日) 9:30~17:30

会場：オンライン開催 (Zoom)

参加費：会員、非会員に関わらず無料

発表申し込み〆切：2025年1月17日(金)

発表者は KELES 会員である必要はありません。  
12月中旬にサイト・応募フォームオープン(予定)  
スペシャルトークの講師は未定

## 学会事務局からのお知らせ

### ◆各種お問い合わせ先

年会費、学会誌、セミナー、入退会などに関するお問い合わせは、学会ウェブサイトの「お問い合わせフォーム」をご利用ください。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfTFG1bUpHC84nkkd2zTyvniFfvUD1veAfA557qcNUHYLHdg/viewform>

### ◆会費納入のお願い

本年度の会費の納入がまだの方は、急ぎお振込みをお願い致します。お振込先は、以下のウェブサ

イトでご確認いただけますよう、お願い致します。

<http://www.keles.jp/join/>

### ◆Newsletter メール配信と メールアドレスご確認のお願い

次号の Newsletter から、郵送での配布を止め、KELES ウェブサイトへの掲載と会員の皆様への一斉メール配信となりますことをご了承ください。また、メールアドレスの変更等がありましたら、下記フォームにて更新をよろしくお願ひいたします。

<https://forms.gle/deRoVkjPDa9iMKkr6>